

## 『日本映像民俗学の会』の発足について

生活文化や民俗事象を生きた動態としてとらえることのできる映像は、これからの民俗調査に重要な役割を果たしてゆくのではないかと考える私たちが、映像による民俗学・映像民俗学を標榜するささやがな会をつくったのは、1974年の11月のことです。

「映像民俗学を考える会」と名付けられた私たちの会は、映像と民俗学の結び得る方法と理論を模索しながら、その映像民俗学の分野の確立を目指して、少しずつではありますが歩みを進めてきました。

大学や地方での映画上映や講演、映像民俗学の方法論への試みとして出された小冊子「映像民俗学—討論・映像と民俗学を考える—」、昨年の11月に二泊三日でもたれた大学セミナー・ハウスでの「映像と民俗学講座」なども活動の一つにあげられます。その他、民俗学の研究資料となりうる映画・TVフィルムの全国調査によるリスト・アップ、民俗記録映画製作の試みなど、継続中のものもいくつかあります。

しかし、今私たちは、活動のさなかで手を携え合った人々、日本の各地に広がりつつあるその多くの仲間たちや、まだ出会っていない隠れた賛同者たちと共に、新たな組織をつくるのが、これからの映像民俗学の発展のために必要なことであると思うにいたっています。

時間のなかに消えてゆく一回性の出合いを、光と影の生きた像として再現できる〈映像〉を媒介にして、日本の民俗事象にかかわろうとする者たちの新たな集り「日本映像民俗学の会」を設立することで、私たちの活動をさらに飛躍させたものにしてゆきたいと考えています。

この会は、誰に対しても開かれた組織です。今まで映像にかかわることのなかった人でも、民俗学についての専門家でなくてもかまいません。これから映像と民俗学に関心をむけようとする人々の入会を歓迎いたします。

映像民俗学の確立と研究を目指すもの、あるいは8ミリでも16ミリでもビデオでもよい、カメラを片手に日本の民俗を記録し、集積してゆく運動体としての「日本映像民俗学の会」を考えています。今春の4月、発足を予定しておりますので、皆様の参加を呼びかける次第です。

1978年1月

「日本映像民俗学の会」発起人

野口 武徳（成城大学教授・社会人類学）

宮田 登（筑波大学助教授・民俗学）

野田 真吉（記録映画作家）

北村 皆雄（記録映画作家）